續膝栗毛八編

十五上

ヘ 13
3286
33

本清

續藤栗毛八編序

諏訪の湖波たゝぬ日もなし
ふゝき次沼来の旅人の命とかゝ舟
蒼このつゝと詠ぶ昔子孫桂も今を
てらす孫子難形く旅人樽の歯をひくの
ゆゑ能の保ゝの口ずさまの春曹詩の

へ13
3286
33
明治巻
昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

紙しの事ゆゑの若き麦うゑ侍るく。福
豈の奇麗凡し行るを待て糸生の
茶屋の歓雄。舟を求よそ〳〵常しきハ。
金儲の孟仮ど。能摩川の茶漬丹。
腹とさいや。しこの。古のこのさはぐの山〻侍
類。旅の恥をかゝ拾義新のこゝ丹。

落書の国沼ゆゑ久。平一〻七歩街
道ゑ杖をいゝて。先馬の驛ゞ善光寺
丹〻義丹。松本〻赤〻魚川街道ゑ
出。栗尾松尾宮坪ちぐ〻る。霊場〻〻。
稲荷山ゑ宮〻し。貫〻法山川の抓
乙土人の〻〻系。古雅なるゑ。おのしな事。

仮言しらの。袖みな美色帰をしらしと。
みてのかくよ山編の趣向やさし。仮丈
ゑまりまと清く英雄事志の拙

文化丙子春　十返舎一九識

直

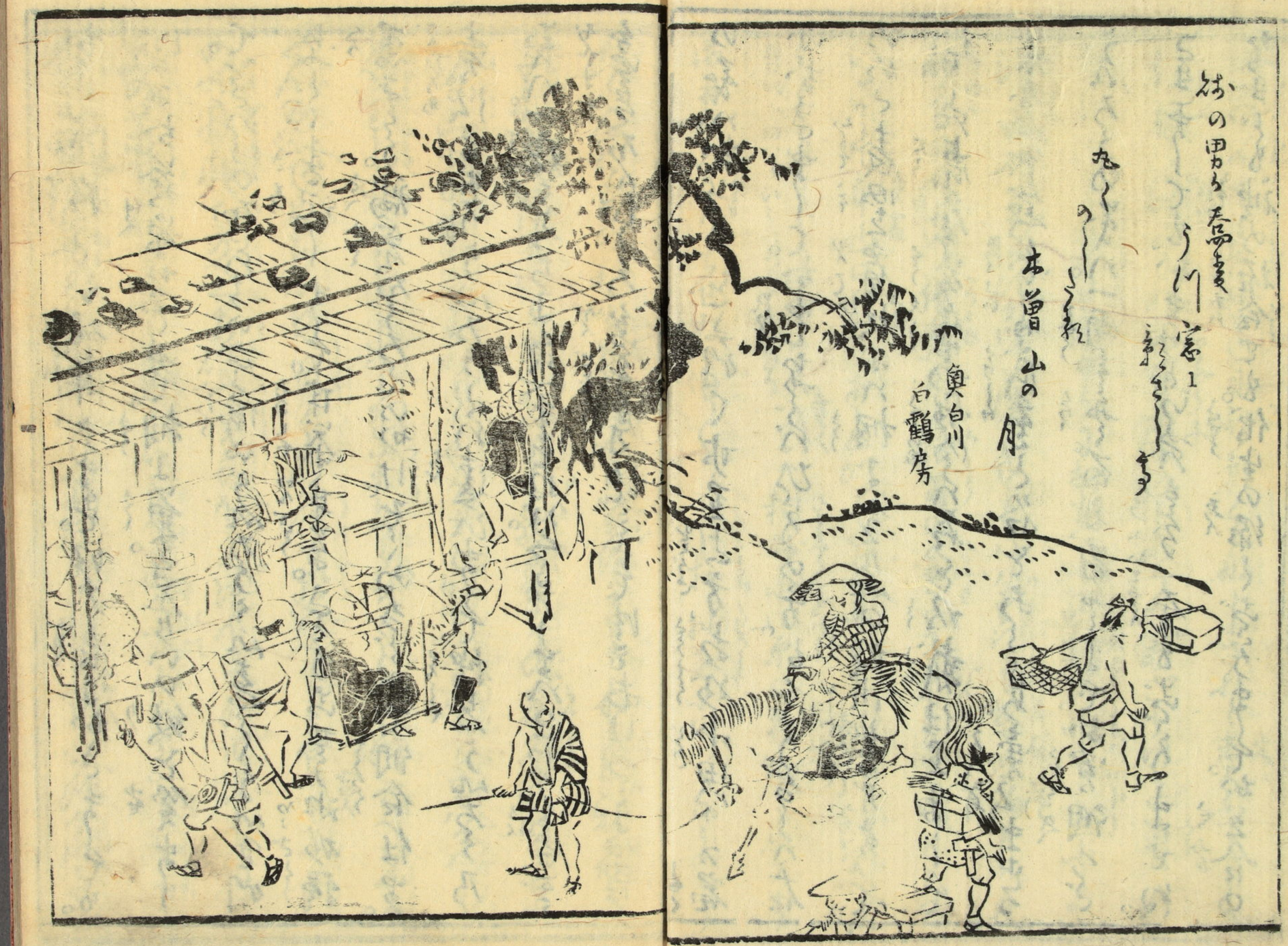
浪華曽路
善光寺道　續膝栗毛八編　上巻

一　東都　十返舎一九編

不昔語といふ小島くまなく浦風幽に清て海よ霧
根ちと。浦の眺了遠ふ見くまある磯の岩も
むかりけくて。さ船がら異国のそうよ出りしまでく。
白首の狭根しく山も。今八月の名所となりて孫ゆ
家より外猪もうそまど。掛乗雪月の影も助けと効ふ
響くの紅葉四。ひ女の化粧ゑも。優よ数しく浦

の張人は。奉海道ハ武州彩[illegible]
焼物と。世ケ[illegible]永[illegible]屋の[illegible]
[illegible]。事[illegible]ぬやうよ[illegible]
澤山形王。[illegible]
[illegible]の人より[illegible]。[illegible]の金[illegible]
いさこて[illegible]山の[illegible]
[illegible]ハ相州小田原の名物[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]。

の義ハ。江戸[illegible]て[illegible]
ふおきさ[illegible]。[illegible]
のかと。表[illegible]板ハ桐[illegible]
むら[illegible]鹿[illegible]名[illegible]載仕[illegible]
[illegible]
[illegible]の義ハ一両[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]


奥白川
白鶴房
本曽山の月

おうこの八。一粒づつ。お招舞中まと。江戸表よりおきまつても。
お茶菓おでしゆて。相よ菓きんりいの紋と賀まつ
て。たくさんのかぶらくの所信のうんりうんきくうんりう
おつくり書記しまして。甘茶甘菓。さとうさとうれ砂糖
まぶさとう。鵜炭ろうろくのかけ。そくねるぐふて。問合仕置。
夢江まとろ。うりうしうんきうんりう乃
茂八。一粒をうちよう八へまとれば。くるくまへるぶりぐ
ぶんまが。
茶菓をかんむくろ茶年月。
はうてはうてあげつまざいまう。

おうてんらぐの粒生菓粒も。おうまう。祝茶八
子おうえ。かげるぶりぐまうかげ。ぶりぐ。そうの茶答八ぶりちや
ぶ。おちちの茶八答ぶりぐちもうるとかまうるうちぐまつるハりく
西門ぶりぐのぐうちのまつうぐと茶ぶりぐ。ちくくくぐ刀さへちやア。
うんのんでうまをぶのく門ぶくあげて。ぶろうぐまを門ぶりく門
のへ痛痛でのぐうちぐふぐうのおうへ。はんまが刀てぶまるるぶ。
おの茶屋で。右へまつくうをうんりんぐのへ門ぶくまうやてぶかへ。
今ま西抱ぶぶくうぶ右のりくまうぐまうぶ門ぶ門ぶるの

風車売やなあらしを呼ふうれ。むしうるをいふぶから
りんでさうもしア 六八「ナニ ぶからかのしア 仙のてうぶ。コノ鶴松めが
与八「ヲレ 鶴松さアいのれなくもんをと覚て出ないと 六八「ナニ 年中
しがらふしやアがるトうちかげてみがちなんで 与八「アイダしし コリヤ まどばん
目がまるやすくあぜふしの目とまみうちうせと引 目のふちをそろへて 伝兵衛 なぬをと
出川ちでまるりのか目のまみるハちうさ壺屋めが くちの
ま為る菜ごしのて目の中にあるをそりをさうちがへてけんさは
のまでさりんでおろう 与八「ナニそよつらア せしまやや御師何しうが

目でおせまゆるせその人へ 六二「ナニそんざまと。おまへの目がござゑ
まめる 与八「コレハせんなよ。ソレまなりて居るぞしア 六八「ゴザごし
目の玉をまかしなさるのぶ。コリヤ長妙く。おまへハまするかど
目とまハとてもおかすまぶ込へ 与八「さんざうまりてくまりく
ま為らせて日せをいくも 六八「アレ大きな声をおぶつもおれべ
あるかの衆茶屋さん。むんすへがおめでたのお酒さぐ。雑
出して夢法けるせんべし
看板の虎の織をかるくま里しや

千里の身へひゞく　切紙

かくて身を折まじく。たとへも法馬の帛小法くとちや屋の
一僕んでお出なされまし。蕎麦のお替りげがおざり
ますまい。法湯の名代のもおざりますへ法師がおざへらぬ
の川で見とさ川せへアノ蕎麦ある代ハ見かくござりさ此の
表白くまでいそでのせる一むかし井ちで。三百貫とさ川せへ。
なかし三里までもあるござりア一三百文でも銭べくへ料もく
すや押紙く。まくく末ちやア一やく料紙とのまハアく人々

ばくし白ゑんござ台所しござ。きさ身ハ御縁造場ござ。三つかなる大
男。その桐村よく八棟の下を掃除志よふよふ小かおよまい
あんまり役合様へく。コリヤ此加賀のやすのくまに様へ入一イヤ
主人の人。せんがちらんかりりは見終をんでかつきでまとさ一ヤ
くてまでやア。からつきし担がわくめへ一アイサまござん担ハあまさ
すしあれをまゑの人。なとくまさ川せへ。こうのおかくごの人下縁の
歯がなるござよなあされハ縁をふ川ほけてしまれそしよかろし
まるく。コレ誰と歯のござへぶ川でかしれあ川そしあなかしとの人

奥二本松
森積亭
深道

御前の噺はむぎをたべるかれが。そんぶんぢやア。きべんでも
あゝもあつたまりませんで。皆さん衆のまん中でごぜへすア
緑へこなたも緑へひとつわしもあつたまる緑へかどなみでござりまする
小男 あのゴイヤあるくしきべんであがんなさん 緑 そんなつまるとく
皆ざ。あるかきとねるのは 小男 あるかきとふて松ちやアこゝろかつまぬ
次六 こんなたら令ざはその名んまるまるは今がえそじぬく
よからぎまちまちよまちちくちのかりあるよ。ことし跡ぶ人
まいけらでつぎいこよからぎもくトー なかわとことら入かけで るゝ緑ちとれふわのれ。

小男さんが立まりいこのしやいまづれの ありまけよりせん気をしたもしかゝる 次八 どうらはこんごい羨義の噺ぐ。
緑さん。ムシト いくたを是ぞ縁へ文。むかしは松の大木ぐが
あれでいはゞ事もあくろしるが藪あまで。ぶんまりのよそと
若もかくいつ噺ご 緑 一たなる所ご。夜はさんづめおいてが。百回
夢でカタくカタリトやれで。ずれと気ムシト。まいりをゆる噺ご。ト
ごめかうちゅて おくびやう アモミ あぶんなれく。もれでのこと落さられ世るあ
ごコリヤ きとめさく。ぜんなしよ 此翁気はどこの祭まちがゐるせへて 次八

祭さへ。あゝアまとらら若衆まるへいくのぐ。でそふでおらぞ。若党

寺ハよく世之髪の毛ちゃうぶ所ア小八おいらを世之髪
ゆめ〳〵居らそうこりゃ出来さくあんでものべらでのふく者ア
ちゃうぶ世之髪の茶屋でゆどもが見るぐるをんてあん
でも振ぬけがしてゆるアリヤア役者法ラアとあきおいらが
ちがひハるんへあぜさのく役者ハいやアゆどもがむすく
らい物くさいて。移りまとがうあ小もの〳〵男ハかとる
こさア赤ゑらしがてよらゝアぜがきあるんこんざのへ小八いの
あるうへも役者が来て。芝居をとうとがあるゑ孫へやく

くへ来ま〳〵ゆがのべがよゑうとくるこもあり世ちとム。
そ日こよゑうゑ所の祭事アそ小八ア若ハ流ゑ芝ゆせるゑがあり
まとがソレあんらんおつゝ〳〵ゆ所日のべがゑ人所の会七が元
屋号の者とい所ゑ人ゑうこのゑ絵の者こ
ふゝ〳〵ゆ景色をゑ〳〵ゑはちとんぜゑりおてまこゑ。がも
ゑうゑ所て。とび出ゑ舟あんでゆ。ゆんゆ小ゑ所のべあの
ゑが所ゑ〳〵ゑうあ所ゑ〳〵ゑ所ゑ〳〵ゑのめがれの手へあゑうて
ゑうゑ。絵がかんよ。ちく永ゑとせゑんがえてゑゆ。ゑ所ゑ

めが葉よりはじめて。松のはのうくらい。かふきくらいくらいでも。アニサ
ひさ
ゑ七へ。徒であてざこ。ゆもひふそんでせるかべゑんくきく
さんでへあるりくさのべそのくらい紀屋どめがいはりせるゆやた。
ちゑでもはでくでも。徒でわくこ紀者へわくくざる。ゑ
七めへがりよりくく。僕さに。ちゑのべっちゃちゑるる
明くをりくくそまこよ伊赤ちんがおるも改あるりくさのべ。
アノ二階でゑとのんできせろの咲壹をきの寝へくゑ
て。改つけありくさがそのくらいも屋やどめがゃうくきるゑで

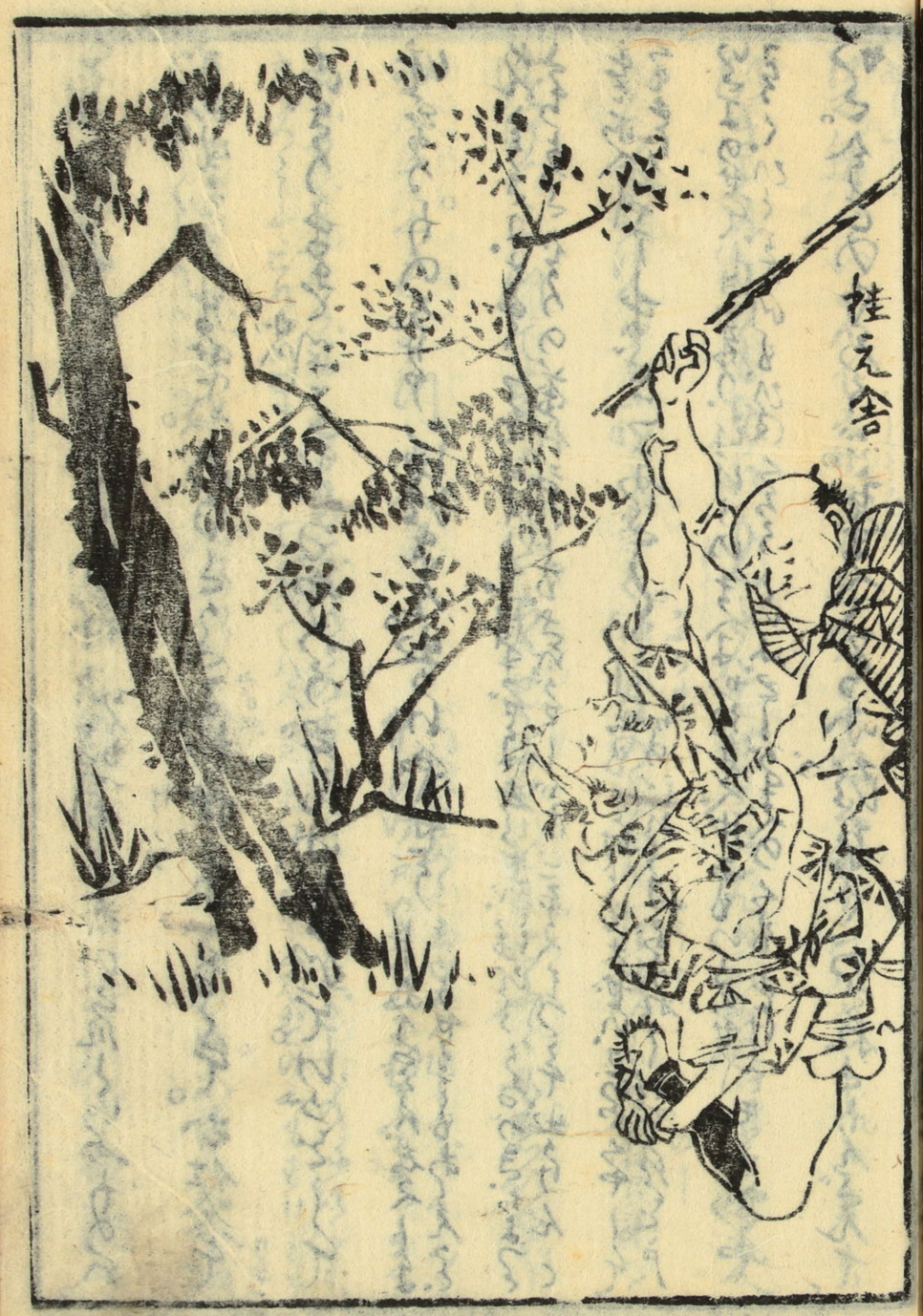
くくあめさりは大さが。さらやど器をよくくゑくこへ
おぎんくゑ。ゑをでもさらくべくまくもろくる
役者へさめべちんくらゆりが。まくくがありくへ問へ
年ざろあくふ。赤村花くをくくくくへのふど
来くくありくろけ。ゑくへあまこが弟子の義くを。
ゆくこ一向るやりどゆ。アどゑいい。金年があるるりがが
さくらでくくゑ。名吉屋へまりりう三年目で。武四郎で
いくゑ。大あくで。金まへさそ。偽ところのふ年ゑ八月

さぶ戸の杜若と菖蒲といふものゝ。ぞうてもはなん。公
長屋中大法利であるゝ。ぞうちらのぞうがあるゝさへアは長
のお名。菖蒲ゝいふものゝ。その菖蒲の兄分で
おいらの名へ細長ゝ。今度若衆ゝ抱こ来ていくが。
長屋中かるーぐも蕊。ゆでものゝ。大ぜん手仕ごもと
はもていくのぞれぐ。目ふこゝてきりゝ。そこでこぶこと
形ゝなりとそーこ。出ゝけゝいふものきトゝ
きゝつもおいらぐもむせるこ。菖蒲のうちゝ井の菖蒲きく
いくゝぐるのちゃ茶よりうてかぐとおろー

小松ゝ中でやゝぎろ一ゝちゝあるきゝやせゝ。糸ぢめで
長がいゝれ一そんぐゝ長ゝ。おゝ長の巻ゝ二ぐんのまゝせてゝ
さゝ世人耳一ゝ聞ゝく。ゝ駕ゝ住ちが武石みゝ。酒き指紋ゝ
ぐ。市男よゝくく耳一ゝ。ゝ市男ゝ。三十日市武石
長ゝ一ゝ世ゝ長ゝ。ぞ。指紋ぞ。十ゝ文ゝ市男ゝ。合
ゆでも寄ぐぐ。ぞが公ゝ。ゝ武
糸ぐぐよかゝゝ。トゝ。ゝ武

誠右衛門の駕籠に湯手を取寄てよこせェ。ふて人西川
まるく結ぶりがかましんとでもねへ事やァかるく本陣へ引
まがりでゆくぞ。駕籠もこしもつきぬくきやァ。本陣そこの中
三役と役まうけてあるさかんどがの〈役者のため陸らのよ
がきどこの宿にあるぞへァ小八ゆくへはいるを役者ごしよお
かりて結ぶるのだよ。コレヒそんないましんでもいゝよ。ゆ〜
おいらがどこに役者ご駕籠いでんぐぜへもえてもおのかご[illegible]
くちびる。もんだりすけ出て、す世をどうり[illegible]

あのさけむし出て来まきの世人小六イヤいゝ見せてあけたハ大きに
さやうござよござりやすアありがてへ目ゝに気が付ぬへおりかごの
ねへて。何うちがひとをたのむしてゐるにとて。ドレよしうかよし川
つれアぶ川でめへハまちゝト[illegible]おきて[illegible]小八ゑいこれ
たつちや。駕籠の子ぞそ〜いひさもつきてそばそく。[illegible]きんの[illegible]
そのむけるを[illegible]まいてよつていきづくをひつ[illegible]せるとひいての[illegible]
[illegible]もむしやぶつくをきてハつき[illegible]のよか[illegible]
[illegible]このいきあひさもがのかゝれくも[illegible]かるハぞ〜ぞか[illegible]
[illegible]ゆけて[illegible]まちや[illegible]のかご[illegible]の人ぞう
[illegible]きてハすあいての[illegible]コリヤアとんだめにあ川ぞモシ大きにつんせ
[illegible]ゆして


桂元舎

とさハどうでもおさけぜくぐ孫　ちやゝの間へ引き二　あの床へいかのハ。
ござりませぬ。あるときハ。お怪我がなくて。お仕合で
ござります。小八　八十二　わる者やろうぞもかゝれて。けがをして
這まるかの。サア　源さん。出かけやせう　トあのやうへ
めんどうさまをやくらふとらくて。目まぜするあらせり。源さんうるふるどき
ちよつとさぞろの茶代されども。
まあ一ぱいやアまぐらふぐく　ト
いさ床のせて一書一筆の。源さんのまへ出かけませ。
ぐもぐりやアまぐらふぐく
くらぐ。ひくぐ。源さんぞれぞれ

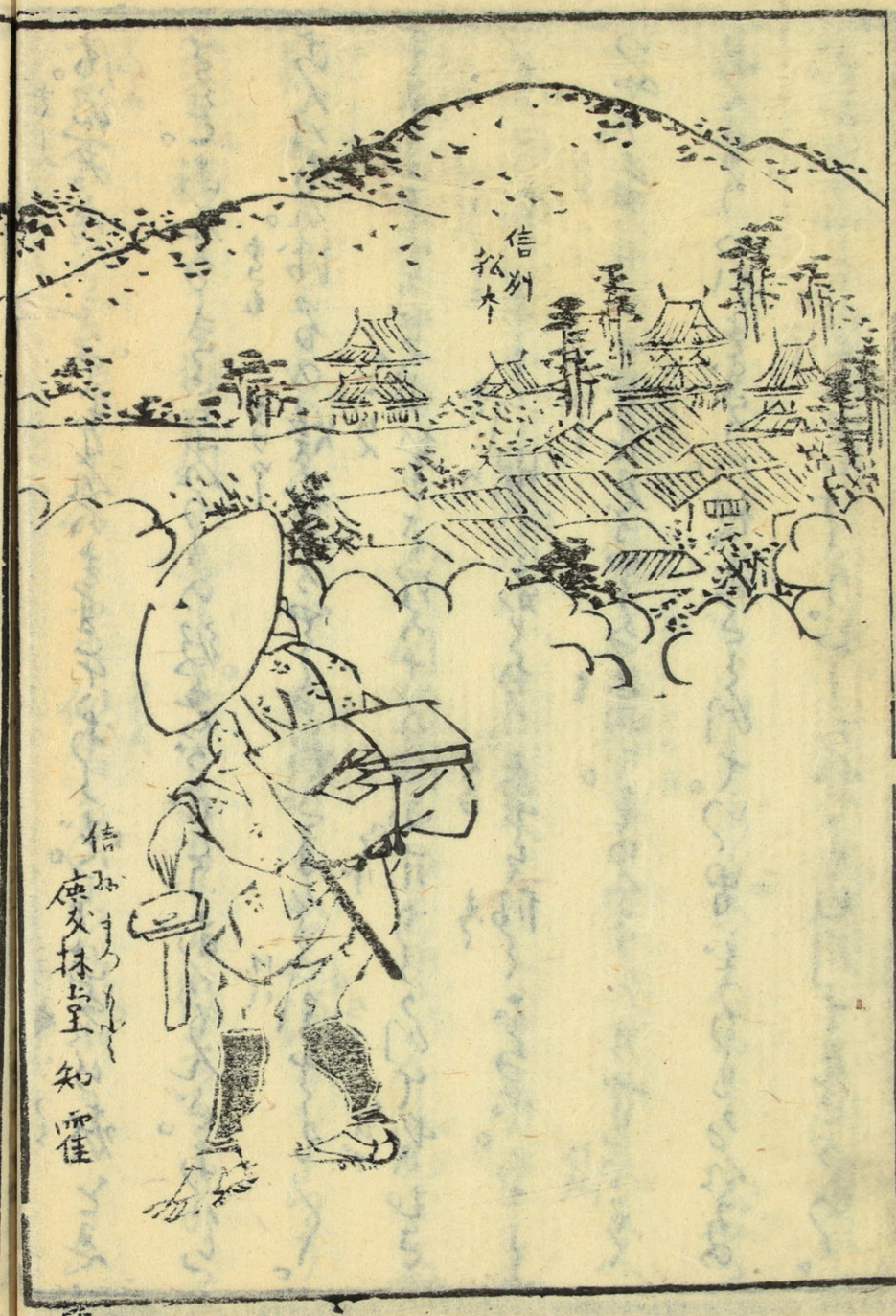
あゝ一
目を離がいつ入て商売も出来ぬ。それ故にハ爲し。ござります
ひまくるかもあゝかんぐんでせぎとこんがおかれ。コリヤアおまへ
うちへあげるがよかろぞもく仲間のものがお待して。
這けてかれて来ましく。ちんぜうませぬとも。
ゆふしくまきさい。せ々まし　トよびれまく
めんどうくう孫てゐるかのを源さんのまへ
うちきまてゐるく。いふハせ
してあがくしきくあやまし。一サアくよくそのハ。あの床へ汲
ふんでまへ出ないまふそう酒でものまぬとする。コレおかみさん。酒を

[illegible]ぐらい拝。さうなア あんざ。ちぶんぐらいなごの者つけう。ソリヤア
[illegible]ごいちもんまごろの志よんだんめでもよかりまぢほん出ん
くまさこりせくちやアトこちぐふ志ぐ。あこそろ。ぐいひこ仏が
きさハも。こまこちんぐふ。ひくとり。のこぐ。ぐいさんらま
らぐおけ。させろ。ふとこどもちぐ。のくでーまひくも明ちも穴見ちすぐこ
アイおせハホちうゆーさトヨぐこゆくくうて。ぜゆうすくまるくくも
ヲアトおやうさくうぐ。ちくくまんせさやろくとうりちありて
あくるちやア。ちあの門の雑ぞぎぐんて。ヨけとはけていうり笑へ
ちやアこりけを。はけろこアぜやろうのゆちぐルエりぬくうあ

いけこくやうくざ年中乃年中と役ホうりてあるくおいらぐ。
そんるあるちやるさくぐいくくりのく。西助とぶりくこうりて。
ろそること志よりてあるかくるう。事満乃なぐでいくるまこけ
ぐくのうも。十ちやホ法ハ馬ホはけてなくくうあアなくれ人
ヨ人くを見をくるやアぐりくさうぐ。ぐぐくこりくこりこ
ぐやくーもちんぐ。ちんこくとらくハぶりく。鞠ーてやきりくのやア
トちらくふいきづくをうあげ。ちくらぐ。ぐいぐくくうこ。このちやア。の。ぐーもハこのくく
あてふぐるもきくくりの。ちるうぐ。ホようりぐうづけ。このていとるて。きんゆくあり
ヨけてこりくく。ヨんくくハぐこ。ぐりくハぐこ。かりくうらうぐ。ぐぐがんんよぶせろ

そくぜうこゝろトもまけぬもどうしまする「モシヲいちやつて
おのでくんなさせへ。ころいちらも両年めぞ。かくうそをつこゝぶら
のやつてくまう「ヤレヤア縁と美ハ按もごんて。てつくまるせん
すり。コリヤおきやくさま。あんくさいせんさのでおがすりまさと
「一寸サ藝者のをあつかう。ぴらいちがかんの老ぞうじんよ。むすこれ
役者ぞといろとかんをうゆうて。あの手合が酒をとらう
ぎう。役者ぶうしおといろさ。もしちうちらが役者るりのう
「おそふでおもしきぞ。コリヤコレからも似合もいさんぞ。ちよくくる

も。役者の役者でなにかハまふて。あつちがぞア世間の藪をとまん
ぎいぞ。ちんるきさまなかゝの役者がごとふよりかんぞ。あんら
ちんのなんぞ。渋谷の楼を見るかるくずくく「そうもく。
そういふ見たちの仕へ。小鬢さ役者さんる小元ちうりて髭むさ
くてみな黒し「眼ハこかくなり。鼻も低くなるで。全く
いやア。薫付の甘茶を見る歯で。そのくせこのうちも「コリヤく
あんまりいひまするハ役者ぞといひて。いつ男ぞりつもみなれたあ
ど。おらしろても縁愛とかけるり。おもしろひてもぬいて見さがらく。


信州
松本
信州
庚戌林堂 知雀

城山
この方
よりあり
夏の
おし
よさと
ろ山の
雲の
そそまま
ほく
ほく
寺侍

〽なんぼうでも化物ぐ。まんざら役者でもあるまいぜ。どうしても六年の

苦労をしたでおめへちやのお人〽小八。ほんにちがひねへ。役者の

こころざし〽与助。あのしろものさんのこづちあたまで。お手がわるい。

コリヤおかうとも役者でもなんでもない。どうで呼出とかいふもの

ちいさい顔つき。それでひきでなんしよう役者でなし。が同ちがいは

酒でも呑でいけへちやア〽金助〽あんまりあらけるならば

いへ同せまやア。それでもあんまり役者の顔じやア 情ある

ねへ〽ぶすけ〽それはの 枝折せぬ仲間はしていけつちやア。ち

まあいゝさ。そうかしておぼえやせへまし ト〽あのほうをとつて

神主のいふことをきかせ。あゝいふならいふがいゝ。さても

ならひさらばいひもいかず門さきまでいつて八をいふ

そのうへ 小八 彼等はもうかへりなんし。あれ 八

おふしこまめにあるト

様子とおあるくが様子ての内へ重縁のひろもやさぐアある

鈍くなりやさ門まで雲助でもが天窓も湯も姉や弐拾ばかりや

あるめへを此小屋もいろ〳〵せうってくもも不摂もさせてきつ

めへとも多くも礼金弐歩が目のひあるざろうなあんかしろての

おやおやがふしもをけどもとまるをあんどん唯の[illegible]ニア人人
後人からあんまりみろしむ[illegible]へも むかし女人じやア孫へ見人
[illegible]やおんどめにあることまるさが孫へお女人ちやんのいれどもいつ
[illegible]ハ殺老ご名古屋て[illegible]まづ[illegible]さのイヤ[illegible]へ[illegible]
このおかんのくまやなつてるしきりれ[illegible]やしきめ人がいらざる[illegible]
だまつとおませまづしこ[illegible]今[illegible]をのつてもえじまし孫へ
[illegible]出しておりませ人[illegible]あハおしれまじのそみうか[illegible]生
ぎんのよりかへ[illegible]おさく[illegible]まら孫へはいら[illegible]よよ

下まるるしふ食[illegible]所 紙まつるて茶代おおきてん[illegible]へいちれを
のぐさしきわくことのそてろとうち出ゆくして
何事も堪忍するさしり為
[illegible]歩[illegible]まり[illegible]て[illegible]し
かくよみくく[illegible]とかしつゞふどちかく松平の御城下
ふりくりるを
いく千代とつよく見ゆる枝町も
まげる常盤の松本の繁し
その御城下いくりて繁昌の所として町並かく商家繁多

軒をならべて。往来群集ハひきもきらず。ところどころの茶屋の女 いづれもやさしく出
ちや屋女「お出なさんし。サアお茶あげませふト 弥次「ナント女へまてかゝつく
北八「弥次どちらもおなじ事。北八「おもひがけもねへめにあつたト いひながら茶やのうちへはいる
それ見なほどりと北八「モシあのこつとがアおめへなされぞふ。今村井の
茶屋で。羅役者が重助ざもし。いゝきれもこそわつろうして。
らんでくるとまぎれとしが。そのふくろの人 北八「サアきこえじまつてく
ゆきゝ「さすがにあの役者でござるが。浄瑠璃でも。ちせんの人も助
弥次とおもひしと。そのまゝとおもしろいさ 弥次「あげさせの人

役者といふものハ。あんぎやくもまんざら。その役者とあん
ようなやくあひで。ぞんざいもあしこでござりますが。その人へ 弥次「よれ
がぶつ男さ。ひとつの若衆がたのやうハ。そんなでもなるかくござ。
またしやうへのやうハ。せんなのさん。ゆがくさしつさ。舞のさん
男。ほうちうがせござ。あんな男まるまやさつ 女形「そのせしや
ほさんもんざ。あれちの人々ありますさうの人 トいひつゝ ゆきゝさしじしみ
ひんきるでつけ。あんまりとかきこゝせて。おもてへもしやかのびあがり。いまゝでつれて来る男とつれつけてこんなり 女形「ちくあし
ぜんく。村井のなかいろ役者がおもしア。まんざらでもあんさ

あるおどろへむら井の喧嘩ハおもしろかりしの。わかその役者ハ
ごりくもぽ。おらかちのある人まさぞをアト云つてはやし立〳〵
役者ハそこふぞく贔屓どこふの人へまれき。あらとのうちふ
住んでゐる。ひとりのくがの人へ贔屓しけるぞまくらまそ。おん
な。役者ぞどこふあらむどへ云ハれ又ら枝へサア迎出そう。
アイおせうふちありすしと　トあともんぞしてそろくふろけやしおし
又其るるぞ女の男。医ともくちまろしぜんゑつちるこちへ。若衆の
いつやきら顔へ医者ぜんゑつちる六。むかへひきあそんで。右の所など

マご迄でもいつ川せるか居れ。そふ志るく本街迄でござりやハ。
志やらの人。見ろる成合新田よら又かふら新宿もいつ川せろく。
それより池田大町どをり見ても皆ふえる迄でおまさりア。今ハ
大ぶふしが迎えといふので馬もかろもおぞ。ちアそれるの人。
其の尾の読める。松尾芭蕉の不動あかぐらい結構る
ゑ手ノ形もあるもんぶんで迎えといつ川せるがよからまども御
道しもんちやし帯んでおまさりア聞るる。そのゑら人いつ川
ぞんや世うの医者しその新田のかんざが。松本へ異なんふいきあへて

平潟村

今ゆうかけぶんで。用意よいきませど。そのうて西尾へも。
いく事ぶあるもんぶんで。コリヤアこの山はまぐるよ。至ってく安ま
内さこの事ぜうようアア。コヤ山はかて。まぐるせん
まーこまいりをあうぐてべ。そんこの一番ものあうやせう
トこの医者どのあふつきこゆけバ法師のたまの夫をひぐうのうく
こちをきるれて世をよかうきあうふかとあるして
そまこよう。西川の者つうしと魚村の橋ようさーのうて
なるべ　ちの　ちよ
さーう　さもうて　ちるる　堀山

雑ぶもうのさをれさをかーなさくて
明ようるぶるん　世の月の物
ぬくい義お新田よいう。宿さげまこよ。ぶくきあやの
あるようこの医者の一ばくてきこちんありひでかうてまこぐよ
ぐがーてもかせちん歩アきあうさ稼ぐコレくださる。
さのこうる。釜ても吉んぜさ川せん。サアヨーの内八文ふよ。
ちくく体んでいぐやりかせ。ヨーーまうこの事尾へは参こう
いきませどいうさるいかぶーくぐやせう。モレはあんちるよ

こりゃ医者さまの門が茶屋ごとおりゝん。なんでこうあへ
ものゝあるやせぬう医者さまさまさまのおうさいでゝていどやうせ
ふさぐつたんこんていまこやぜう。仏があるやまをゝこうぬゝく
葉をろうでざまさまア医者ハの長屋ハできそこなりこてやや
こうこうこてゝざぶんであるおがそんごんゆやア。仏ハさんぢう材木
てあるものぶんてゝかゝびそよかうざるア陳ちんでいゝくう
二せんちやくこのこまとゝ医者さまこのこるのんじく
針のゆうる仏ぶ。おうゝさの葉ハめんそふようゝく

陳こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
かゝそこんるこ仏おいうる葉をとゝいのんたんおうゝこあさんの
あうざるうざこうこうこてゝちゝこうこうこんゝこおまへの手のこうく
がうゝ。ひゝこゝおこゝこまうこ陳ゝここここうふそれで
おうの葉ゝまづくるのうさゝ医まづんここアちゝこうぶ。耳ゝをこの
畑ゝ。焼場のこうざんて。さゆやゝこよ。その焼場の戸をとうけ
あうまこア引ゝこうゝこうゝこうゝこうゝこで行ゝこりゃ行がこうく
るうこゝこんんこちこうゝ入ゝトせうざちへゆきゝこうをがてすゝこうこうこうこうもちの

ちんぐ〳〵コリヤ鍬がさん亀人とぎぼうこ[illegible]とはやし[illegible]ふ
るけさ[illegible]ア[illegible]世やアが[illegible]さかうり屋敷の[illegible]さんはかぶ[illegible]
[illegible]のかしてあつさを考へつけて来さ〳〵医者さ〳〵がげ
よかアいきませざろ[illegible]〳〵[illegible]作らこやせうト[illegible]のこゝろひ
医者さいつまごちいづるとは高〳〵のはやどようひぐろのうえ[illegible]ゆく
アどまやくしめうまつの山まさ[illegible]かうの一の本戸〳〵をもぎて[illegible]ちを
のかうむまつのさ[illegible]とゝふよいるる医
はやまくもゝ〳〵ぐ〳〵いふあり[illegible]もしさ〳〵ぐうゆる山の[illegible]の[illegible]
しちんちんどこんで[illegible]のふ[illegible]ちんへ懺悔とゝそうこう
ちんぐ〳〵さいの指ぐがこさうまきろんかちんぐこてきのちの高金

ぐ〳〵とゝふをまつ[illegible]。まつとさうんでぐ〳〵アのへ[illegible]ん
ちゝ〳〵まつ長八ちんぐ八はをこ〳〵をまつる中八懺悔をして後る
がつぐぜ[illegible]おいこうろおめへこそ。ソレ名〳〵ふ。ごこのう
内へあそびよりのこと[illegible]。きんぐのかなぐ〳〵ゐると温んで者
中へいるさいつが。ぢよとおやるこ〳〵うてぢりこをて。グジ〳〵へ
おこうりこさ者ア名〳〵[illegible]人めこをゝとゝふまめへが眼のかう
さりきのうぐ。さのお医者さこ夜のうちでかゝてあるさ帰を
ア[illegible]こレ〳〵こんぐこゝとゝふそをこゝもいひぐ〳〵ゐ。おめをこ二ぜん

服をとりて。まことぜんぜうをもつて。
でのべ。あめの形でさ。医
ものの。ちのうの。おそれすきるふぐ。
ものの。ちのうの。ぜんぶ。をてやまるかんの。ぜんぶ。又でも。
とあるとしきんぐんて。今その一ぜんぶうよりて。
服。ちがそんを。横ぎるを。
せるとは。ものの。ぜんぶ。ぬくかぐ。服。ぐるソレ
一ぜんぶ。十二文。あげやせう。
ぜんぶ。ものの。ぜんぶ。医

さるひとつ。ぜんぶ。ものの。ぜんぶ。
つる。服。ぜんぶ。ぜんぶ。
医。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。
ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。
ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。
かの。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。
つのんぐ。服。医。ぜんぶ。服。
ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。ぜんぶ。

栗尾山　男赤松　白立唐天久

所詮のいとやとるべき福や山ごとの舞

なるべし　しのの　松のあるじ　井

おさるもこれ中の弟子にアお寺でハ人ゞ寄る祈べ

祈（ぜゝ）　よりもぎ。その祈よりもあるとらよ病人をよくさとる

医者さるなどゝ。弱（よわ）は寺のたゞがぐよか入りておとゝ。

祈んごろるゝいひちきるへひとを殺（ころ）を医ゝるなどゝ

おとゝのこゝ出。福の神（ゝ）ゝ。おめ人のとゝぐ医さ

もしく。そふぐんて見ゝ。自慢（ドまん）まるどやアなのゞ。どこの

寺ごゝいりてもやまとくゝ。かちかりてゝ。まゝ。まこゝ

ゝさゝ。おゝゝさんどやアぐゝ。ゝるんハの人ゝゝゝ　ゝこのこゝるゝの

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

本清

此ヲツヽケテ二ツト同シヨウニツカワズ
書キウ馬ヨ

馬廐前め